

CLUB HARLEY



ノベトキナルミの鉄馬ツーリング。
自然の恵み、長野でうまいモノづくし!

毎月14日発売
クラブ・ハーレー

特別価格 1200yen

2013年8月号 (毎月14日発売)
7月13日発売
第13巻第8号通巻146号

8 2013
August
Vol.157

ride the HARLEY-DAVIDSON.

asty life

特別付録
ヴィンテージハーレー
サウンドコレクションVol.4
『ナックルヘッド』
DVD 付き!!

ニッポンを変える男達。

ハーレー

Next Generation

命がけ。

ネクスト
ジェネレーション





ハンドル周りの配線はメインフレームの内部に通される。配線をスッキリ見せるためのひと手間だ



短いシッシーバーはリアフェンダーと一体に。デザイン性と利便性をうまく両立したディテールだ

タンクに絞り込まれたタンクはシート付近でフレームと一体化するようにスムーズにシムアップされている



2007 FXST

オーナーの体格に合わせてシートの厚みを増したことで操作性を高め、ロングツーリングでの快適性も確保。ロングフォークでありながら急激に切れ込むことなく、乗りやすい1台になっている



1999 FXST ガウディ

タンクとリアフェンダーに施されたカッティングが独創的。建築家のアントニオ・ガウディが好きだというオーナーの要望を受け、サグラダ・ファミリアをイメージしてデザインしたという

塗装前のリアフェンダー。この写真をブログにアップしたところ、海外のカスタム好きからもの凄く反響があったとか



メーターはタンク内側に設置し、隙間から見るとギミック。霧に囲まれた生命体のような、SF的な雰囲気だ



オーナーの希望を超えるカスタムを提案する。

お客様の要望をくみ取りつつ、その上をいくカスタムを作りたいと言う。最近ではiPadを使ってラフを描き、アイデアをカタチにしている

作り上たい

見る者に強烈なインパクトを与える。独特なデザインワークを得意とするトライジャ。その原点にあるものは、クオリティの高いアメリカのカスタムマシンだ。

text: Fujita 藤田佳照 photo: T. Saurimi 鶴見健

「愛する ファミリーのための、 オンリーワンを

オリジナルブランドのパーツもデザイン。

高品質でデザイン性の高いプロダクトを展開するパーツブランド「刻美」。岡本さんが生み出す独特な世界観を体現している



1997 NUSHI

トライジャのカスタム第1号であり、岡本さんの愛車。当時まだ少なかったヨーロッパなハイテクスタイルで、トーレのワイドツリーとビレットパーツを中心に構成している



My Inspiration Item

ボクが影響を受けたモノ

アメリカのカスタム誌「VQ」のバックナンバー。

'90年代の終わりから'00年代初頭に発行されていたアメリカのカスタム専門誌で、クオリティの高い美しいカスタムばかりが取り上げられており、バックナンバーはほぼコンプリートしているとか。誌面に取り上げられる車両は現在のトライジャのスタイルに通じる物がある。岡

本さん曰く「今のカスタムのアイデアはほとんどの本に載ってる。当時の欧米のビルダーはホンマにレベルが高いわ」とのこと

その人に合った1台をプロデュースしたい。

流麗なシルエットに秘められた圧倒的な作り込み。トライジャが生むカスタムはどれも一分の隙もなくデザインされている。代表の岡本さん自身はビルダーではない。例えるならプロデューサーで監督で演出家。決して自ら演じることはない。このスタンスは99年にトライジャがオープンする以前、まだ一人のハーレー乗りだった頃からのものだ。

板金工場や金属加工業者を探し、5年もの時間をかけて念願のカスタムを完成させた。同時にこの車両がトライジャとして世に出したカスタムの第一号となった。現在では信頼できるメカニックが在籍しており、板金溶接や車体の組み上げはすべて自社で行っている。「うちのメカはホンマにようやってくれてる。僕の描いたデザインを見事に実現してくれるし、彼らが組んだ車両なら、初めて走らせる時から安心して全開で走らねん」岡本さんにとってお客様は家族そのものだという。だからカスタムを作る時も、大切な家族が

乗るバイクであることを片時も忘れていない。「大切な家族に、『わからんけど、こんなモンでええか』なんていうバイクを渡せないでしょ？ その人の体格や力量、キャリアまで知った上で、安全に楽しめる物を提供したい。僕は『この仕事を『半医半商』』と思ってる。ビジネスだけど、納車したら

乗り方のアドバイスやメンテナンスをし、危ない走り方してたら叱らないうと。バイクショップがバイクを作るのは当たり前。人と人の関係を作ってみんなに楽しんでほしい。僕もお客さんに助けられているし。トライジャに関わる人はみんなファミリーなんよ」